



学校の歴史をたどると ～その2～

校長 関原 秀明

先月号に引き続き、本校の歴史の1ページをご紹介します。

本校の図書室の一角に「とくめい文庫」と題する書庫があります。6、7年前まではそのいわれについての紹介文が掲示されていたのですが、現在は取り外されているため、通っている子供たちも職員もその内容を知りませんでした。お恥ずかしいことですが、私もこの文庫のいわれをつい先日、『富山の教育 ちょっといい話 第6集』（平成22年富山県小学校長会発行）を読んで初めて知りました。そこには次のように紹介されています。

昭和22年4月に、校史の中で一番悲しい出来事が起きました。校舎が全部焼けてなくなってしまったのです。入学して1週間のあきちゃんには、とっても悲しいことでした。友達と一緒に勉強できることが嬉しくて、みんなで遊べるのが楽しくて、毎日わくわくしていたときでした。

校舎がなくなったあきちゃんたちは、近くのお寺で勉強することになりました。家から持ってきたミカン箱が机に、暗い御堂が教室になりました。友達は、離れ離れになりました。あきちゃんは、日がたつごとに、とっても寂しくなりました。

「こんなとき本があったらなあ……。」

1年生のあきちゃんはそのときのことを心の奥に大切にしまいました。

あれから20年。あきちゃんは、立派な大人になりました。仕事をして、給料をいただくようにもなりました。読みたい本も、食べたいものも、何でも買えるようになりました。そのとき、子供の頃、心の奥にそっとしまったことを思い出したのです。

「自分にできることは何だろう。」

あきちゃんは、毎月三千円の図書券を学校に送ることに決めました。「国吉小学校の子供たちに本を買ってあげてください。卒業生より」という手紙を添えて……。それは、退職するまでの25年間続きました。



現在もたくさんの子供たちに
読まれています。

この国吉地区には何とすばらしい方がお住まいなんだと感激しました。あきちゃんはどうなたなのかを詮索するのは野暮なのですが、ある地域の方にお尋ねすると、私も存じ上げている方であることが分かりました。その方には現在もいろいろな形で本校の教育活動にお力添いをいただいております。深く感謝申し上げます。これまでのご篤志を歴史に埋もれさせないためにも、子供たちにこの文庫がもつ意味を伝え、掲示を再開しようと思います。

学校生活の様子から

○安全パトロール隊の方々に感謝の気持ちを伝えました。(11/27)



お礼の手紙とプレゼントを贈りました。



交流タイムの様子です。



「いかのおすし」を唱和しました。



全員合唱で感謝の気持ちを伝えました。

○学校保健委員会で、「睡眠」について考えました。(11/17)



小学生にとって睡眠は10～11時間は必要だと言われています。寝る前はゲーム等、脳を刺激するものは控えて、明日の元気につながる睡眠を確保させたいものです。



質問しています。

富山大学理事・副学長神川先生の講演を聴きました。

○教師が寸劇で「あったか言葉」を伝えました。(11/24)

